

# KAWASAKIしんゆり映画祭の主な事業

## ◆ジュニア映画制作ワークショップ

シナリオ作成から完成までの一通りの映画制作を、中学生自身の手によって行うワークショップです。もちろん、中学生だけでは分からないことや出来ないことがたくさんあります。

そこで、日本映画大学関連の映画制作のプロである講師や、ボランティアスタッフが中学生をサポートします。

【制作時期】 6月下旬～8月中旬

【実施場所】 日本映画大学 ほか

※昨年度参加者 18名



## ◆野外上映会

KAWASAKIしんゆり映画祭では、2000年からイベントとして、地元小学校の校庭を舞台とした「野外上映会」をスタートさせました。軒を連ねる屋台で、縁日気分・お祭り気分を堪能した後、野外上映会のスタートです。映画館で観るのとはひと味違った映像体験を観客の皆様楽しんでいただきます。

昨年のデータ

【開催日】 2015年8月22日(土)

【会場】 川崎市立麻生小学校

【作品】 『バック・トゥ・ザ・フューチャーPART2』

(89年/アメリカ/日本語吹替)

※昨年来場者数 約1000名



## ◆本祭

21年間にわたり培ってきた新百合ヶ丘ならではの映画文化と歴史を顧み、今年しかできないラインナップや企画の実施を予定しています。また、映画制作者、観客、そして映画祭を作る市民スタッフなど、映画祭に関わる誰もが楽しめるような企画にも取り組みたいと考えています。

市民スタッフが作品選定、プログラム企画を行います。より深く、より広く映画文化を理解していただけるようなトークイベントなどの他、恒例の「ジュニア映画制作ワークショップ」の作品発表会や、「活弁上映」「バリアフリー上映」「保育サービス」などを実施する予定です。

昨年のデータ

【開催時期】 2015年11月3日(火・祝)～11月8日(日)

【会場】 川崎市アートセンター

【作品数】 22作品

【観客動員数】 約2,400名

【ゲスト実績】 30名



# KAWASAKIしんゆり映画祭について

## ◆「KAWASAKIしんゆり映画祭」とは(これまでの歩み)

「KAWASAKIしんゆり映画祭」は、1995年に川崎市の「芸術のまち構想」の一環としてスタートし、今年で22回目を迎えます。

「市民(みんな)がつくる映画のお祭り」として、地域住民や企業の皆様のご支援ご協力をいただきながら、市民スタッフが企画・運営の中心を担い、行政がバックアップする新しい形の市民映像祭として定着・発展してきました。

市民スタッフが作品を選定し、監督・俳優の方々などをお招きしてのゲストトーク、シンポジウムなどを企画。障がいを持つ方のための副音声ガイド制作や字幕制作、中学生が映画をつくり上映する「ジュニア映画制作ワークショップ」の実施、村祭りを再現する「野外上映会」なども企画。映画ファンのみならず、年齢を超え、街ぐるみで楽しんでいただける取り組みを展開してきました。

映画祭 公式マスコット  
「シネマウマ」



(シマがフィルムになっているんです！)

- 【主 催】 NPO法人KAWASAKIアーツ
- 【企画・運営】 NPO法人KAWASAKIアーツ映画祭運営委員会
- 【共 催】 川崎市、川崎市アートセンター、川崎市教育委員会、  
日本映画大学、一般財団法人川崎新都心街づくり財団、  
昭和音楽大学
- 【後 援】 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、麻生区文化協会、  
公益財団法人川崎市生涯学習財団、  
NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり
- 【協 力】 イオンエンターテイメント株式会社、小田急電鉄株式会社 他

※「野外上映会」は、麻生区とNPO法人KAWASAKIアーツが主催。  
麻生区地域課題対応事業です。